

# にしだよい

第6号 令和元年7月

## ☆新職員紹介☆

新年度も始まり、<にし>に  
新しい職員が加わりました！



白石敦子  
(看護師)



岡田智洋  
(作業療法士)



江藤恵利加  
(介護福祉士)



和田大輔  
(生活支援員)



辻原樹里  
(社会福祉士)



諫山 懂太  
(社会福祉士)

## ～訓練紹介～ 「外出訓練」について

当施設の役割は「利用者様の退所後の地域生活の実現や就労」としており、その一環として“外出訓練”を実践しています。歩行での近隣外出や、電車・バス・タクシーなどを利用した外出など様々なパターンがあり、個々の利用者の背景因子に合わせ訓練を行います。

一例を挙げると、バスや電車等の公共交通機関を利用する場合は、時刻表から自身のスケジュールを適切に立案するところから始めます。タクシーやリフトバスの予約が適切に行えるか、電車の場合は駅職員へサポートの依頼が行えるかなど日常生活状況を含めた評価を行い、その後実際に外出をする実践的な訓練に移ります。

外出の自立を検討する際には以下の点を重視しています。

- ①外出が行える心身状態にあること
- ②自立に向けた訓練施設としての規則を守れること
- ③生活や訓練における集合時間を守れること
- ④身だしなみが自立すること
- ⑤栄養管理された食事を日常的に摂取し、健康状態が良好に維持できていること
- ⑥集団生活や行動に協調性があること
- ⑦外出手続きを自主的にできること

このように日常の訓練や生活の中で意識を高めながら、「一週間<にし>で訓練を頑張り、週末は外出してリフレッシュする」。そんな効果も目指し、職員・利用者の皆様ともに外出の自立を目指して日々励んでいます。

### ～Mさんの外出訓練～



電車にて外出しました



駅で立ち食いうどんも経験しました！

～にじを卒業された方のご紹介～

## 大好きなパソコンを使って・・・



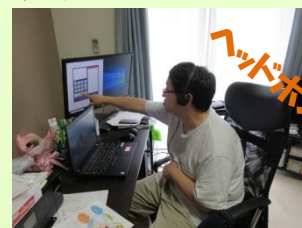
大分県内に住む40代のKさん。

ガソリンスタンドスタッフとして、20年以上勤務されていましたが、約3年前、脳出血を発症され、左半身に麻痺が残りました。

長いリハビリ期間を経て、<にじ>退所後の令和元年6月に、東京に親会社がある特例子会社で一般就労され、人生で初めての単身生活も始めました。築5年のバリアフリーのきれいなアパートです。

Kさんは、<にじ>就労移行支援を利用され、就職と単身生活を目標に、日々の職業訓練と勉強会や面接会などに取り組みました。いろいろな企業面接を受けましたが、障がいを持つての就職の難しさを感じていました。それでもあきらめず、就職を目標に頑張り続け、ハローワークから今回の仕事のお話をいただき、就職することができました。

仕事は在宅勤務です。親会社である薬局職員の勤怠管理を行います。9時から17時36分まで、パソコンでの入力作業です。ミスにはとてもシビアで、トリプルチェックがあるそうです。今は職場の先輩（師匠）から、スカイプで直接指導をいただきながらの、研修期間です。研修期間が終われば本格的な仕事開始で、店舗の担当をする予定です。（ヘッドホン姿がかっこいいですね！）



ヘッドホン姿のKさん

食事制限があるKさんは、<にじ>入所時から栄養士に指導を受け、食事に気を付けています。今ではお惣菜やレトルト食材の味は、とても辛く感じているようです。減塩食がしっかり身に付きました！

しかし、在宅勤務のため、以前より運動する機会が減りました。今後は朝と昼の隙間時間に、自宅から遠いコンビニに歩いて買いものに行ったり、喫茶店にコーヒーを飲みに行ったりするなど、生活の中に運動を取り入れる方法を話し合いました。

初のお給料もいただきました。まずは、新生活のための冷蔵庫、テレビ、洗濯機、電子レンジ代にお金は消えていきます。今後、生活環境を整えて、「パソコンの部品を買って、ちゃんとしたパソコンを自作したいです。」と言われていました。

<にじ>の退所のごあいさつで、「就労移行の訓練が開始になり、好きなパソコンでの訓練（事務作業）が増えた頃から、毎日が楽しいと感じるようになりました。」と言ってくださったことを思い出します。

長い長い病院と施設生活を終えて、新しい生活がスタートしました。大好きな仕事を長く続けられるように、運動や食事に気を付けて、これからもがんばってください！！



栄養指導を受けています

社会福祉法人農協共済 別府リハビリテーションセンター

障害者支援施設 にじ （機能訓練・生活訓練・就労移行支援・施設入所支援）

〒874-8611 大分県別府市鶴見1026-10 TEL：0977-67-1716 ホームページ：http://www.brc.or.jp